

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成19年10月31日

【評価実施概要】

事業所番号	272501338
法人名	社会福祉法人奥入瀬会
事業所名	グループホームあゆみの里
所在地	上北郡おいらせ町東下谷地618 (電話) 0178-50-1801
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年8月9日

【情報提供票より】(平成19年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	12人, 非常勤 1人, 常勤換算 6.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	理美容代1,000円/回 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	330 円	昼食 330 円
	夕食	330 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険おいらせ病院、木村歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年度に設立されたホームであり、管理者を始めとし、職員の年齢層は低く、いきいきと日々のケアを提供している。管理者や職員は理念を十分に理解しており、理念にあるように利用者中心の考え方に基づいた支援を行っている。また、施設長、管理者、職員間での信頼関係が構築されており、ホーム全体でより良いホーム運営に努めている。

利用者一人ひとりの生活歴等を把握し、個々が得意とする菜園作業や趣味を活かした物づくり等を促し、日々の喜びにつなげている。また、利用者と職員が共同で作った廃品を利用したゴミ箱や小物入れはホーム内に置き、活用している。

利用者の転倒による事故を防ぐため、ホーム設立時から弾力性のある柔らかいフローリングを使用したり、ゆったりと座れるソファを設置する等、利用者が安全かつ快適に過ごせるような配慮が行われている。

【特に改善が求められる点】

職員が話し合ってホーム独自の理念を掲げているが、全職員で地域密着を意識したケアについて話し合う等、現在の理念に地域密着型サービスの役割を盛り込むことに期待したい。

地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について職員は関心を持っているが、外部研修の機会が少ないこともあり、全職員が制度に関して十分に理解するまでには至っていないので、外部研修への職員派遣のほかに、その後の内部研修を充実させる等の取り組みに期待したい。

災害対策マニュアルのもと、定期的に避難訓練等を行って災害に備えているが、数日分の食料や飲料水、毛布等の寒さをしのげる物品を用意してはどうか。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の結果について全職員で改善に向けて話し合いを行っており、利用者の権利と義務の明示や介護計画の実施期間の明示等、具体的に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	会議や勉強会等を通し、管理者や職員は評価のねらい等について十分理解している。また、自己評価内容は全職員で検討している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、地域代表の方々や家族代表、役場担当者が参画して運営推進会議を開催しており、評価結果等を報告して意見をもらい、改善点に積極的に取り組む等、これからのホーム運営及びケアに生かすよう努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	ホームだより「あゆみ」を毎月1回発行しており、利用者の生活状況や金銭出納状況、身体状況等を報告している。また、ホーム内外の苦情受付窓口を家族に周知したり、オンブズマンを受け入れる等、利用者や家族の意見等を積極的に取り入れる仕組みとなっており、家族から意見等が出された時には施設長が責任者となって解決する体制が整えられている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町の市日や祭り等の行事に積極的に出かけるほか、幼稚園児がホームに訪れる等、地域との繋がりが持たれている。また、ボランティアや実習生を日常的に受け入れるほか、高校の文化祭には利用者の作品を出展する等の交流も図られている。

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	「私たちグループホームあゆみの里は、その人らしく生活していただく為にお年寄りの生きがいを見つけ尊重し、思いやりをもってケアします。」というホーム独自の理念を掲げている。理念は職員に浸透しており、職員は利用者一人ひとりの生きがい作りに徹するよう努め、管理者始め全職員が理念の実践化を目指し、日々のケアを提供している。 職員の異動は法人本部で行っているが、異動による利用者への影響を十分に考慮した上で行っており、異動がある時には利用者への説明や職員間での引き継ぎを十分に行っている。
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	ホーム利用前には利用希望者や家族に十分に説明を行うとともに、意思等を把握できるよう話し合いを行っており、納得した上で入居してもらっている。また、体験宿泊を実施する等、利用希望者や家族の不安を取り除く配慮も行われている。 利用者の気持ちを考え、利用者の視点に立ったケアを提供するよう全職員が努めている。また、畑仕事等の利用者の得意なことは手伝ってもらおう等、利用者と職員が共同しながら生活している。
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	利用者一人ひとりの生活歴や意向を十分に考慮するとともに、職員の気づき等を取り入れて介護計画を作成している。また、計画は、再アセスメントを行った上で、3ヶ月に1回の見直しや状態変化等に応じた随時の見直しを行っている。 利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援するほか、いつでも相談できる協力医療機関を確保している。重度化や終末期のケアに対応しており、指針を定め、家族や医療機関との確認を行いながら支援する仕組みとなっている。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	利用者のプライバシーを損ねないよう、勉強会等を通して接し方や言葉遣い等について理解を深めている。利用者本人の考えや趣味、希望等が最大限に生かせるよう、利用者との話し合いを大切に、利用者本位のケアに努めている。 法人本部の管理栄養士が献立を作成しており、摂取カロリーや栄養バランスに配慮されたものとなっている。また、週1回は利用者の好みを取り入れたメニューとなっており、利用者の希望にそった食事を提供し、利用者の楽しみへとつなげている。

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、地域密着型サービスの役割を十分に理解している。職員が話し合っ事業所独自の理念を掲げているが、地域密着型サービスの役割を反映したものとはなっていない。	○	全職員で地域密着を意識したケアについて話し合いを行う等、現在の理念に地域密着型サービスの役割を盛り込んではどうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、会議や勉強会、日々の申し送り等で職員に理念を話しており、職員は理念を十分に理解した上で、利用者の希望等を優先したケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホームの立地条件等から近隣住民が気軽に立ち寄ることは難しいが、町の市日や祭り等に出かけるほか、近隣の幼稚園児がホームに来訪する等、地域との関わりが持たれている。また、高校の文化祭には利用者の作品を出展したり、ボランティアや実習生を日常的に受け入れる等、利用者との交流及び職員の質の向上につなげている。見学や実習生等を受け入れる際には、認知症について誤解のないよう、事前説明を行う等の取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議や勉強会等を通して、管理者や職員は評価のねらい等について十分に理解している。また、評価内容について職員も含めて検討し、サービスの質の向上につなげている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には民生委員や町内会代表者等が出席しており、2ヶ月に1回開催している。会議では評価結果等を報告して、意見をもらい、改善点等があれば積極的に取り組むよう努めている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームのパンフレットを配布するほか、毎月発行しているホームだより「あゆみ」を配布し、ホームの状況を伝えている。また、評価結果も報告している。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	これまで地域福祉権利擁護事業等を利用している方がいなかったこともあり、全職員が権利擁護事業や成年後見制度等について十分に理解するまでには至っていない。	○	利用者は認知症の方なので、今後に備えるためにも、外部研修や内部勉強会等を通して権利擁護事業や成年後見制度について全職員が理解を深めていくことに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等を通じて全職員で虐待について話し合いを行うほか、日々職員間で注意し合い、言葉づかい等に十分注意するよう心がけているが、虐待を発見した場合の対応方法等に関する取り決めを作成するまでには至っていない。	○	虐待を発見した場合の対応や連絡方法等に関する取り決めを作成することに期待したい。また、虐待防止や発見時の対応等に関するマニュアルを作成すると、職員の入れ替わりなどがあっても全職員が対応を認識できるのではないかな。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前には重要事項説明書で利用希望者や家族に十分に説明を行ったり、ホームでの生活を体験してもらうとともに、利用希望者や家族の不安を和らげるよう話し合いを行っている。また、契約改訂の際にはホーム便り等で家族に報告したり、退居時にも十分な説明を行い、同意を得ている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「あゆみ」や電話で一人ひとりの暮らしぶりを毎月報告している。便りには個々の家族へのメッセージが書き込めるようになっており、健康状態や受診状況を伝えている。また、金銭出納状況や職員の異動についても報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口には意見箱が設置されており、ホーム便り等を通して利用を促している。また、重要事項説明書にはホーム内外の苦情受付窓口を明示しており、家族への周知に努めている。オンブズマンが来所しており、利用者の意見等を聞く体制が整備されているほか、家族から意見等が出された時には施設長が責任者となって解決する仕組みとなっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等の人事は法人本部で行っているが、異動による利用者への影響を十分に考慮した上で行っている。職員の異動がある時には利用者きちんと説明するとともに、職員間での引継ぎを十分に行い、利用者に精神的動揺を与えないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては必ず研修を行う等、職員の経験や資格等に合わせた内部研修の実施や外部研修への派遣を行っている。研修受講後は復命書を作成するとともに、ホーム内で報告会を行い、全職員に研修内容を伝達しているが、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	職員が学びたいテーマや研修受講履歴等を把握するとともに、これまで研修を主催した団体に問い合わせ等の取り組みを行い、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームを見学し、それを運営に反映させているが、ネットワークに加入する等の同業者との継続的な交流・連携の機会を確保するまでには至っていない。	○	同業者のネットワークに加入することにより、他のホームの動きを把握できるとともに、職員同士やホーム間での連携が図れるのではないかと。県南地区のグループホーム協会への加入を検討中なので、早期の実現に期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心してサービスを開始できるよう、利用前に利用希望者や家族と十分に話し合いを行い、意思等の把握に努めている。また、体験宿泊を実施する等、利用希望者や家族の不安を取り除くよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	勉強会を通して、利用者の気持ちを考えるとともに、利用者の視点に立ったケアを提供しよう全職員に周知しており、顔の表情等からその日の体調を把握するなど、一人ひとりを大切にされた支援が行われている。また、利用者の得意な畑仕事を手伝ってもらう等、利用者職員が共同しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者及び職員は、利用者との日々の関わり等から一人ひとりの生活歴等を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は、利用者や家族の意見や希望を聞くとともに、職員の意見や気づきを取り入れ、ケアマネジャーが作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、3ヶ月に1回の見直しを行っている。また、日頃から利用者のきめ細やかな観察に努めており、状態変化等があった時には随時の見直しを行っている。見直しを行う時には再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出時には利用者の希望を聞く等、一人ひとりに応じた柔軟な対応を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受療状況を把握しており、かかりつけ医等、利用者や家族の希望する医療機関での受診を支援している。また、協力病院を確保しており、歯科も含めていつでも相談することができる。家族との連絡が密に行われており、受診結果や体調については随時報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに対応しており、指針を定めている。事前に家族に指針を説明するとともに、その都度の確認や医療機関からの情報収集を行い、対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者及び職員は、利用者のプライバシーを損ねないよう、勉強会で利用者への接し方や言葉づかい等について理解を深めている。職員は常に利用者の言動に耳を傾けるほか、対応に問題があった時には職員間で振り返りを行っている。また、個人情報保護についても規程を整備し、全職員に周知しており、個人に関する書類は鍵の掛かる場所に保管する等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づき、常に利用者優先の考え方でケアを提供するよう努めており、業務を優先することなく、利用者一人ひとりのペースにあわせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の健康や栄養を考慮し、献立は法人本部の特養の管理栄養士が作成しているが、一週間に1回は利用者の好みを取り入れた献立となっている。利用者の意向に合わせて食事の準備や後片付けを手伝ってもらうほか、利用者との会話を楽しみながら職員も一緒に食事を摂っており、食べこぼし等へのさりげないサポートを行っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが、その日の利用者の意向や体調等を考慮しながら入浴支援を行っている。また、入浴時は一人ひとりの羞恥心に配慮したケアを行っている。入浴を拒否する利用者に対しては時間帯をずらす等、個々の意向に配慮した対応を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握しており、利用者が穏やかで喜びのある日々を過ごせるよう、菜園作業や趣味を活かした物づくり等を促し、利用者の楽しみにつなげている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	町内の市日には毎月買い物に出かけるほか、天気の良い日はホームの車両で出かけたり、希望を聞きながら散歩に出かけている。外出する時には一人ひとりの体調を考慮した上で支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、日々の勉強会を通して身体拘束の内容について理解しており、拘束は行わないということを合言葉に日々のケアを提供している。やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備えて家族等への同意を求める体制は整備されているが、拘束の理由等を記録する様式を用意するまでには至っていない。	○	重度化や終末期に対応していることもあり、やむを得ず拘束を行わなければならない場合に備え、理由等を記録する様式を整備してはどうか。また、拘束にあたる行為の基準や対応を記載したマニュアルを整備すると、職員の異動等があっても統一した考えや内容でケアが提供できるのではないか。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間は施錠しているが、常に利用者を観察しながら、日中は施錠せず、利用者が自由に出入りできるようになっている。また、外出傾向を察知できるよう、センサーを設置している。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成しており、毎月1回避難訓練を実施するほか、年2回は消防署の協力のもとで訓練を行っている。また、法人全体で夜間対応のマニュアルや連絡網を整備するほか、自衛消防隊を組織しているが、災害時に備えて食料等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害時に備え、数日分の食料や飲料水、毛布等の寒さをしのげる物品を用意してはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握し、個人記録に記載している。法人本部の特養の管理栄養士が献立を作成しており、栄養面への配慮は行われているが、ホーム職員が提供している食事のカロリーを把握するまでには至っていない。	○	法人本部の管理栄養士が作成しているカロリー計算表をホーム内にも保管し、ホーム職員も提供している食事のカロリーを把握してはどうか。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成するほか、勉強会等を開催し、感染症について理解を深めている。また、新しい感染症が流行した時等はその都度マニュアル見直しを行うほか、対応等について勉強会を行っている。感染症に関する情報は電話等で家族に提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とゆったりとした共用空間には、利用者が一人になれるようソファが何ヶ所に設置されている。また、職員の話す言葉や物音も静かで、テレビや音楽の音量も適切であり、落ち着いた空間となっている。ホーム内には利用者と一緒に作成したカレンダーを飾ったり、季節感を出すための工夫が行われている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用していた物を持ち込んでもらうよう働きかけており、居室には馴染みの物が持ち込まれ、安らぎのある、居心地の良い空間となっている。		

※ は、重点項目。